



## DUKE ELLINGTON VOL.3 THE COTTON CLUB DAYS

### ザ・コットン・クラブ・デイズ/デューク・エリントン VOL.3

- ① マオリ―フォックストロット MAORI-Fox Trot (Tyers) 3:08
- ② ホエン・ユア―スマイリング WHEN YOU'RE SMILING (L. Shay-M. Fisher-J. Goodwin) 3:06
- ③ マオリ―ルンバ MAORI-Rumba B (Tyers) 3:12
- ④ アドミレイション ADMIRATION (J. Tizol-I. Mills-M. Curtis) 3:02
- ⑤ ダブル・チェック・ストンプ DOUBLE CHECK STOMP (A. Bigard-I. Mills) 2:53
- ⑥ アコーディオン・ジヨー (テイクA) ACCORDION JOE (Cornell-Wimbrow) -Take A 3:02
- ⑦ コットン・クラブ・ストンプ (テイクA) COTTON CLUB STOMP (D. Ellington-H. Carney-J. Hodges) -Take A 2:56
- ⑧ ランニン・ワイルド RUNNIN' WILD (J. Grey-L. Wood-A. H. Gibbs) 2:43
- ⑨ ムード・インディゴ MOOD INDIGO (D. Ellington-I. Mills-A. Bigard) 2:52
- ⑩ ホーム・アゲイン・ブルース HOME AGAIN BLUES (I. Berlin-H. Akst) 2:55
- ⑪ ワン・ワン・ブルース WANG WANG BLUES (G. Mueller-B. Johnson-H. Busse-L. Wood) 3:01
- ⑫ ロッキン・チェア ROCKIN' CHAIR (H. Carmichael) 3:12
- ⑬ ロッキン・イン・リズム ROCKIN' IN RHYTHM (D. Ellington-H. Carney-I. Mills) 3:00
- ⑭ 12番街のラグ TWELFTH STREET RAG (E. L. Bowman) 2:57
- ⑮ ザ・ピーナッツ・ヴェンダー THE PEANUT VENDOR (Sanshine-Gilbert-Simons) 3:15
- ⑯ クレオール・ラブソディ・パート1 & 2 CREOLE RHAPSODY (D. Ellington) -Part 1 & 2 5:57
- ⑰ イズ・ザット・リリジョン? IS THAT RELIGION? (M. Pinkard-M. Parish) 2:20

Supervised by Akira Yamato  
©1991 MCA Records, Inc.



## DISCOGRAPHICAL DATA DUKE ELLINGTON AND HIS ORCHESTRA

Arthur Whetsol, Freddy Jenkins, Cootie Williams(tp), Joe Nanton, Juan Tizol(tb), Barney Bigard(cl,ts), Johnny Hodges(as,ss), Harry Carney(bs,cl,as), Duke Ellington(p), Fred Guy(bj), Wellman Braud(b), Sonny Greer(ds)

①

New York, February 21, 1930.

New York, March 20, 1930.

②③④

Jenkins out, Joe Cornell(acc) added

New York, April 22, 1930.

⑤

⑥ vocal by Dick Robertson

⑦

New York, October 17, 1930.

⑧⑨

New York, October 27, 1930.

⑩ vocal by Irving Mills

⑪ vocal by Irving Mills & Benny Payne

New York, January 14, 1931.

⑫ vocal by Benny Payne

Benny Payne(p) added

New York, January 14, 1931.

⑬⑭

Payne out

New York, January 20, 1931

⑮⑯

⑰ vocal by Sonny Nichols



## ■ エリントン・サウンドの個性が強固に現れ出した時代

このアルバムは、エリントン楽団の初期の作品中、ブランスウィックに吹き込まれたデッカ系統のレコーディングの最終期、即ち1930年から31年に亘る演奏を収録したものである。エリントン楽団は、ニューヨークのハーレムにある最高級ナイト・クラブ「コットン・クラブ」の専属バンドとして、その名声が一躍高まった時代である。この期間も、エリントン楽団は、ピクチャーに正式契約があったので、同レーベルの吹き込みには、「Duke Ellington And His Cotton Club Orchestra」の名を用いていたが他のレーベルの録音には、仮名を使用した曲が常であった。従って、このアルバムに収められた曲も、The Jungle Band、Earl Jackson And His Musical Champions 等のバンド名でレコーディングされている。

この2年に亘る期間のエリントンのバンドは、ディスクグラフィーを見れば判るように、メンバーが固定して全く移動していない。トランペット3本、ロンボン2本、サクソ3本、リズム4本という12人編成のオーケストラとして、漸く不動のメンバーによるまとまりが強固となり、オーケストラ・サウンドに、エリントン・カラーが輝き出した時である。ピガード、カーネイ、ホッツェスの3人の黄金のリード・トリオのセクション・アンサンブルの美しいサウンドの魅力は、このアルバムで大きく楽しさの一つであろう。又 Mood Indigo における斬新なソリリティもこの期に初めて具現されたものだ。一方、エリントン・バンドの強味であるソロイストの個性は、この期に益々発展し、エリントン・サウンドの不可欠の要

素として、成長した。実際、ホーン奏者の8人は、どれもととても個性ある一流ソロイストであり、このアルバムのどこかに、彼等全てのソロが登場している。

勿論、コットン・クラブに出演していた事情から、オリジナルだけでなく、流行歌も多く手がけ、ミルズを始めとするクルーナーの唄もフィーチャされている。曲によっては、ソロがなくてアンサンブルが殆どという明らかにダンス・ミュージックとしての編曲もほどこされている。しかし、そのような流行歌やダンス用の音楽を演奏しても、まぎれもないエリントン・サウンドを忽ち与えてしまうこと、それが今日きいてもおもしろい個性を有していること、そこにこそエリントン・バンドの偉大さがあるのだ。

エリントン楽団は、この期間中の30年7月に初めてハリウッドに赴いて、アモスとアンディという人気コメディ・チーム主演のRKO映画「Check and Double Check」に、バンド全体で出演することになった。既にレコードとラジオで名の知れ亘っていたエリントン楽団の人氣が、更に高まったのはいう迄もない。そのような若くして意気益々かんなエリントンアンズの名演集である。

## ■ 演奏曲目解説について

### 1. マオリー——フォックストロット

1930年2月21日に吹き込まれたこの曲は、題名からして、ラテン作家のものではないかと思われる。作者Tyersの略歴は不詳だが、この日デュークのバンドは、Maori-Foxrot のタイトルで2テイク、Maori-One Step のタイトルで2テイク吹き込んでおり、更に翌3月

20日に、Maori-Rhumba のタイトルで2テイクを録音した。ディスクグラフィーによると、デュークのバンドは、この曲を1932年9月21日再度録音したが発売されなかった。恐らく、コットン・クラブでのショーのダンサーの伴奏音楽として、エキゾチックなラテン・タッチのアレンジをしたものであろう。構成はI テーマがA B A B 16小節、II テーマがA B A B 32小節。ソロオーダーは、イントロ後 I テーマをアーサー・ウェッツェル(tp)、ヴァース合奏のあと、II テーマをジョー・ナントン(tb) が吹く。

### 2. ホエン・ユアー・スマイリング

エリントン楽団がこんな唄をと思うかも知れないが、実はこの吹込前年の1928年にアーヴィング・ミルズが出版しており、ミルズ自身が唄ったこの演奏が、或いは初吹込かも知れない。ジャズ・ヴォーカルのスタンダードとなった佳曲だが、ここではショー・シンガー風にミルズが、全くストリートに甘く唄っているところが、この頃のエリントン楽団の甘さをよく現わして楽しい。早いテンポで、多数のソロ・プレイが続々出てくるのがきまきまの。

ソロ・オーダーは、ナントン(tb)、ミルズ(唄)、フレディ・ジェンキンス(tp、オリガード)、クーティ(tp) とホッツェス(as) のかけ合い、ジェンキンス(tp)、ホッツェス(as) で、特にナントンのミュード・ブレイト、ジェンキンスの美しいオープン吹法が光る。

### 3. マオリー——ルンバ

前述したように、タイトルに「ルンバ」と銘打って再吹込されたのは、当時ルンバ・リズムがバリやアメリカで流行し、ショーに盛んに使用されたからであろう。

イントロにホッツェス(ss)、テーマは、バンドの甘美なアンサンブルが多いが、アーサー・ウェッツェル(tp) とジョー・ナントン(tb) のソロが入り、コードにバーネイ・ピガード(cl) がきける。

### 4. アドメリション

一聴してこれがエリントンか、と疑いなくなるような大甘な演奏だが、作曲者が、ヴァルバ・トロンボン奏者のジュアン・ティゾールと判れば、成程と肯かれる。ラテン風、或いはスパニッシュ風といっても良い曲調だ。16小節から成る2部のテーマはルンバ調、ヴァースはスパニッシュ・タンゴ調のリズムで、終始殆どバンドの合奏のみで奏されるが、3大リード奏者によるサクソの甘いハーモニーが実に楽しいムードを作り出し、殊にサビの部分のハバネラ・リズムのサクソ・ソリの甘いことは、こたえられぬ魅力だ。ソロは中間に、エリントンのラテン・タッチのピアノと、アーサー・ウェッツェルのストリートなトランペットがきけるだけだ。ブラインド・フォールド・テストに使っても恐らく誰も判らないだろう珍品には違いない。

### 5. ダブル・チェック・ストンプ

この演奏も珍品で、ジョー・コーネルという名のアコーディオン奏者が加わって、堂々たるソロを演じている。この曲は、同じ月の約10日程前に、ピクチャー・レーベルに初めて吹込まれたが、それは楽団のレギュラー・メンバーだけだった。ところがこのブランスウィック吹込には、当時ジャズ・アコーディオンで有名だったコーネル・スメルサーを加えて、ジョー・コーネルの仮名で2曲吹込んだ。(もう一曲の、Accordion Joe は次に収録)。A B A B 32小節の曲だが、早いテン

ボで、コーネルのアコーディオンがソロに、或いはアンサンブルとからみ合せて、バランスも良く堂々たるプレイをさかせる。サクセス群のソリも益々磨きがかかって、素晴らしいアンサンブルになっている。

ソロは、コーネル(acc)、コーネル(acc)、ハリーカーネイ(bs)、プロード(b)、コーネル(acc)、ナントン(tb)、コーネル(acc)、ホッツス(as)。

#### 6. アコーディオン・ジョー (ティク A)

前曲に続いて、ゲストのアコーディオン奏者ジョー・コーネルのソロをフィーチャしたジョー自作の曲で、クルーナー歌手のディック・ロバートソンの甘いボーカルが加わる。A B A 32小節構成の唄物で、ソロはイントロのコーネル(acc)に続き、コーネル(acc)、クーティ・ウィリアムス(tp)、ハリーカーネイ(bs)、ウィリアムス(tp)、ディック・ロバートソン(vo)、コーネル(acc)。

#### 7. コットン・クラブ・ストンプ

この演奏も、いさかミステリーに包まれたもので、1929年5月にビクターで録音された同名の Cotton Club Stomp とは明らかに異なる曲であって、米国のデッカ原盤(DL-79247)では、このタイトルになっているが、伊太利の研究者 L. Pusateri 氏によれば、Unknown title と記されている。この演奏の特色もアンサンブルが多いことで、A B A 32小節が、5回繰返される中、ソロは、第4コーラスのジェンキンス(tp)だけであるが、エリントン楽団自慢のサクセスの黄金トリオが、ソプラノのリードを用いて高音の甘いサウンドをフィーチャしているのが、際立って印象的だ。

#### 8. ランニン・ワイルド

文字通り急速テンポの演奏で、アーヴィング・ミルズに良く似たクルーナー歌手のディック・ロバートソンの甘い唄がフィーチャされるが、プラスとサクセスのセクション・ソリが一段と美しい迫力を発揮し、クーティのソロも、つやのあるトーンと力強いフレーズングとで奔放自在のプレイだ。ソロ・オーダーは、クーティ(tp)、ロバートソン(vo)、ビガード(cl)が唄にからむ。

#### 9. ムード・インディゴ

エリントン不朽の名作の初吹込がこの演奏である。A B A の19小節のムーティな旋律が、ウェッツェルのミュート・トランペット、ビガードのクラリネット、ナントンのミュート・トロンボンの3重奏によって始めと終りの2回提示された時は、その新鮮なトーン・カラーは大きな驚きであった。中間のビガード(cl)と、ウェッツェル(tp)のソロも感傷に充ちた名演であり、短い7人編成の小編成で吹込まれたことに注意願いたい。

#### 10. ホーム・アゲイン・ブルース

アーヴィング・バーリン作の流行歌で、ミルズが再びびびり唱っているが、エリントン楽団が、ジョー・バンドとしてもいかに見事なものであったかが如実に判る。

ソロは、ナントン(tb)、ハリーカーネイ(as)、ミルズ(vo)、ジェンキンス(tp)。

#### 11. ワン・ワン・ブルース

ブルースといっても、A B A B 32小節の流行歌で、ミルズのクルーナーのヴォイスにベニー・ペインというシャガれた声の歌手がかけ合い風にデュエットしている。さびの部分、ビガードとナントンに短く3回も吹かせ

たりするアイデアも面白く、エリントンの優れた編曲の才が如実に感ぜられる。

ソロは、ナントン(tb)、ビガード(cl)とナントン(tb)のかけ合いを3回、エリントン(p)、ミルズとペイン(vo)、クーティ(tp)。

#### 12. ロッキン・チェア

ホーギー・カーマイケルが1930年に作った名作の一つを、エリントン楽団は31年最初に、先づチック・ブロックを歌手として録音し、次にベニー・ペインのボーカルで吹き込んだ。クーティ・ウィリアムスのオープン tp がテーマを美しく奏し、やがてジョー・ナントンの tb がからみ、ペインの唄に入る。バックのデュークの p が情緒を添える。

#### 13. ロッキン・イン・リズム

これもデュークの大作で、この演奏は2ヶ月前のオーケラ盤吹込に続く2回目の録音である。A B C 26小節とA A 16小節の2つのテーマから成っているが、イントロのデュークのピアノ・ソロといい、テーマのサクセス群のソリといい40年前に設定された構成が今日でも変らない偉大さに改めて心を打たれる。

ソロは、エリントン(p)、ウィリアムス(tp)、エリントン(p)、ビガード(cl)、エリントン(p)、ナントン(tb)。

#### 14. 12番街のラグ

ティスコグラフィーによると、エリントン楽団は、この古い曲を、速く1924年にワシントンニアズという7人編成で吹込んでいるが、レコードになったのはこのブラスウィック盤が初めてである。ここでは、ベニー・ペインがピアノに坐って、デュークと連弾で、調子の良いラグを弾いているのが面白い。

ソロは、デュークとペイン(p)、ナントン(tb)、ジョアン・ティゾール(tb)、ジェンキンス(tp)。

#### 15. ザ・ビーナッツ・ヴェンダー

前掲の Maori-Rhumba に続いて、本格的なラテン・ルンバの登場である。リズムもよりルンバ的に刻まれている。キューバのピアニスト、モイセス・シモンズの作。1930年、キューバのドン・アスピアス楽団のニューヨーク公演で紹介され、そのレコード(ルンバ・フォックストロットと記されていた)が大ヒットして、アメリカ始め全世界にルンバ代表曲として流行した。デュークの楽団は、コットン・クラブのショウでも早速演奏したに違いない。曲構成は46小節、アンサンブルの間に、フレディ・ジェンキンス(tp)とバーネイ・ビガード(cl)が何回もソロをばさみ、後半ハリーカーネイ(bs)が加わって、にぎやかに盛り上げる。

#### 16. クレオール・ラブソフィ

SP 両面に亘る6分の長篇として作られたもので、8、12、16各小節の3部のテーマより成る。従ってソロも、ビガード(cl)、エリントン(p)、ビガード(cl)、クーティ(tp)、ホッツス(as)、エリントン(p)、ジェンキンス(tp)、ホッツス(as)、ジェンキンス(tp)、ビガード(cl)、グリアー(ds)。

#### 17. イズ・ザット・リリジョン?

ブラスウィックに吹込まれた最終曲で、流行歌なので、ロバートソンの唄が入っている。珍しいのは、ビガードがここでテナーを吹いていることだ。

ソロは、カーネイ(bs)、ビガード(ts)、ナントン(tb)、クーティ(tp)、ロバートソン(唄)。

[解説・瀬川昌久]

WMC5-327





WMC5-327

DUKE ELLINGTON VOL.3/THE COTTON CLUB DAYS

MCA RECORDS

## DUKE ELLINGTON VOL.3 THE COTTON CLUB DAYS

- |                        |            |          |                                 |            |          |
|------------------------|------------|----------|---------------------------------|------------|----------|
| 1. Maori-Foxtrot       | (E32210-B) | 30-02-21 | 10. Home Again Blues            | (E35035-B) | 30-10-27 |
| 2. When You're Smiling | (E32447-A) | 30-03-20 | 11. Wang Wang Blues             | (E35036-A) | 30-10-27 |
| 3. Maori-Rhumba-B      | (E32448-B) | 30-03-20 | 12. Rockin' Chair               | (E35800-A) | 31-01-14 |
| 4. Admiration          | (E32449-A) | 30-03-20 | 13. Rockin' In Rhythm           | (E35801-A) | 31-01-14 |
| 5. Double Check Stomp  | (E32612-A) | 30-04-22 | 14. Twelfth Street Rag          | (E35802-A) | 31-01-14 |
| 6. Accordion Joe-A     | (E32613-A) | 30-04-22 | 15. The Peanut Vendor           | (E35938-A) | 31-01-20 |
| 7. Cotton Club Stomp-A | (E32614-A) | 30-04-22 | 16. Creole Rhapsody, Part 1 & 2 | (E35939-A) | 31-01-20 |
| 8. Runnin' Wild        | (E34927-A) | 30-10-17 |                                 | (E35940-B) | 31-01-20 |
| 9. Mood Indigo         | (E34928-A) | 30-10-17 | 17. Is That Religion?           | (E35941-A) | 31-01-20 |

Supervised by Akira Yamato

**DECCA**  
MCA RECORDS

©1991 MCA Records, Inc. Manufactured by MCA Records, Inc. 70 Universal City Plaza, Universal City, California -U.S.A.  
WARNING: All rights reserved. Unauthorized duplication is a violation of applicable laws. Printed in Japan. WMC5-327

WMC5-327

デューク・エリントン VOL.3 /ザ・コットン・クラブ・デイズ

WEA MUSIC